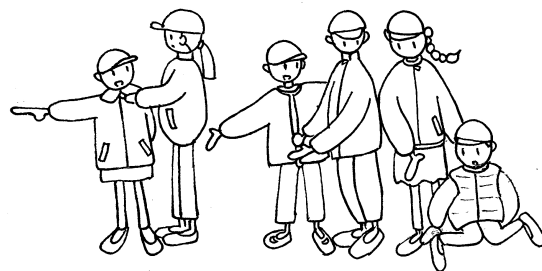


だ み よ く り に

No.768 令和 7 年 12 月 1 日発行



「今だ！準備はいいですか？」

寒さが本格的になる前に少しずつ大掃除をしよう、毎年そう思うのですが、今年も間に合わず師走を迎えています。私事についてできなかったことではなく良かったことに目を向けて、年末に滑り込んでいこうと思います。さて、良かったことの1つ。最近、とても久しぶりに褒められる経験をしました。それは免許センターでのこと。講習で千葉県内の事故件数について、講師の方がこう話しました。「この数に“なった”のではなく、ここにいるみなさんがそう“した”のです。あなたが交通ルールを守ってくれたから、この数なんです。だから、ありがとうございます！ 皆さんのお陰です。これから安全運転を続けてください」といった内容でした。そうです。褒められたと言ってもわたし個人ではなく、その講習会場にいた参加者全員に向けてです。それでもなんだか褒められて嬉しい気持ちになったのはわたしが単純だからということ是否めません。ですが、褒められると嬉しいものだと思えば再発見した出来事でした。そして、この講師のように、物事の見方をほんの少し変えるだけで、たった一言付け加えるだけで、たった一言言い換えるだけで、受け取る相手はこんなにも気持ちが違うものだと感じられたことは大きな収穫です。そういう気遣い、視野の広さをもった人でありたい、そう思いました。

そして、園内では子どもたちの喜怒哀楽に遭遇します。つい先日も、怒った場面に遭遇。自分の想いがうまく通らずに怒りたくなったようです。ですが、よく見てみると、見えたのはただの怒りの感情だけではなかったのです。その時はちょうど配膳の途中で、その子の目の前にはごはんが載ったお盆が置いてありました。次の瞬間、いてもたってもいられなくなったのでしょうか、ご飯が盛られたお皿をそっとよけ、お盆だけを手で払いのけました。想像してみてください。この子の気持ちがよく伝わってきませんか。怒っている、体で表現したい程、でもご飯が食べられなくなるのは困る……などと考えてこのような行動をとったのでしょうか。これが垣間見えた時、そうはたかくなってしまうくらいの気持ちを真っ正面から受容し共感してあげたい、これに尽きました。子どもたちの姿をよく観察していますと、色んな気持ちが見えます。近くにいた先生もその

ほんの少しの行動に気づき、単に注意をするのではなくちゃんと気持ちを受けとめて関わっていました。この先生がいてくれてよかった、とも思いました。

このように、感情表現ひとつをとってもまだまだ成長途中の子どもたちです、子育ては本当に大変です。特に懇談会や登降園時に皆さんのお話を聴くことで、それを実感します。だからこそ今日は、皆さんの頑張りがちゃんと子どもたちに伝わっていること、子どもたちの未来に向かって蓄えられていることをお伝えしてご自分を労っていただきたいと思い、この歌をご紹介します。

「ぼよん行進曲」

作詞 中西圭三・田角有里

どんなたいへんなことがおきたって きみのあしのそのしたには
とてもとてもじょうぶな 「ばね」がついてるんだぜ（してた？）
おしつぶされそうなそんなときだって
ぐっ！と ひざこぞうにゆうきをため
「いまだ！スタンバイ！オーケー！」 そのときをまつのさ

—中略—

ぼよよ〜んとそらへとびあがってみよう
ほらあのかもまででがとどきそう
ぼよよ〜んとたかくとびこえてゆこう
にじのふもとでえがおでまってるきみがいる
あるけ あるけ あるけ
すすめ すすめ すすめ ……

保護者の方、保育者が毎日毎日大変な思いでやっていることは、子どもたちにちゃんと届いて蓄えられていて、子どもたちが飛び上がるための丈夫な「ばね」や「ゆうき」を作っていることだと思います。この歌にわたしは、子どもを支える大人の存在を感じます。

さて、子どもたちにとって一番重要なお家。そのご家庭を支えらるよう、わたしたちはこれからも園の役割を全うしてまいります。

今年も園の教育保育にご理解、ご協力くださいましたこと、心より感謝申し上げます。皆さま、どうぞ良いお年をお迎えください。